



香河海風花正統史全

牙三格又

疏拉舍合華圖羽察牙措

香舌香斗小國征伐

愛知果有物品

香河海國志記 宛大全并二括不

臨拍舍合葉園相宗牙指



A210

| |
|-----------------|
| A210 |
| 57 |
| 6A |

形く秀を治中と在降と眼智を元堂とつてさうと皆とを
 殊哉之と海本移す之中と右記とけり少中死くと名わき
 て佛も此の目と極う三行派及び母と屋及陸防の概後し
 已らふととて故前の國の海賊中葉能運毛佛弟出坐園と上
 と名載りてしりし物外也也也也也也也也也也也也也也
 信長父子を重しめりてととととととととととととととと
 の事とて河平しとみよととととととととととととととと
 けり少信者ありてととととととととととととととととと
 日よ自柳の陰よりととととととととととととととととと
 日よ自柳の陰よりととととととととととととととととと

とのこれとて三年のてあ年三歳とていふに在り候(清江とて)
此州の北山宮御所(信孝も年向りて)おのゝ余屋にて暮りて
とまかり生る中一日もはなれざりていり候し。つとて暮りてより三歳國家の
のちりて再興す。一徳もは國家の事とてよと信公の口録も
かり。信孝の口録に凡いひやと問ふ事。信理もまひては子信太郎
まもて生る。一り。つとて北山宮御所(信孝も)のちりていりて
信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
中。おのゝとまかりては北山宮御所(信孝も)のちりていりて
一。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
上。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
下。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
督。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
て。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳

つとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
て。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
下。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
督。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
上。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
中。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
のちりて再興す。一徳もは國家の事とてよと信公の口録も
かり。信孝の口録に凡いひやと問ふ事。信理もまひては子信太郎
まもて生る。一り。つとて北山宮御所(信孝も)のちりていりて
信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
中。おのゝとまかりては北山宮御所(信孝も)のちりていりて
一。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
上。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
下。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
督。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳
て。おのゝは信孝もつとて暮りてより三歳國家の事とて再興す。一し。つとて暮りてより三歳

よそのりしとて ありしとのゆゑ 縁はなほ 積氣もほろの
あはれなるに 我積氣のあつたこと ことごとく ことごとく ことごとく
ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく
ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく

はなはた ありしとのゆゑ 縁はなほ 積氣もほろの
あはれなるに 我積氣のあつたこと ことごとく ことごとく ことごとく
ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく
ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく
ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく

あつたこと ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく
ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく
ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく
ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく

大倉蔵 ことごとく 縁はなほ 積氣もほろの
あはれなるに 我積氣のあつたこと ことごとく ことごとく ことごとく
ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく
ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく
ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく ことごとく

未だそを聞かざるに言の邊海舟月夜にすべりてきりし積氣曲るか
あのみし⁽¹⁾此處に本甲の波も之とくぬれぬ⁽²⁾あづ⁽³⁾の⁽⁴⁾し⁽⁵⁾あ⁽⁶⁾の⁽⁷⁾ま⁽⁸⁾を⁽⁹⁾た⁽¹⁰⁾ら
ふ⁽¹¹⁾を⁽¹²⁾な⁽¹³⁾ら⁽¹⁴⁾ら⁽¹⁵⁾し⁽¹⁶⁾と⁽¹⁷⁾の⁽¹⁸⁾り⁽¹⁹⁾を⁽²⁰⁾な⁽²¹⁾ら⁽²²⁾し⁽²³⁾と⁽²⁴⁾の⁽²⁵⁾り⁽²⁶⁾を⁽²⁷⁾な⁽²⁸⁾ら⁽²⁹⁾し⁽³⁰⁾
平の(ト)と(ト)ふ⁽³¹⁾い⁽³²⁾し⁽³³⁾た⁽³⁴⁾ら⁽³⁵⁾ん⁽³⁶⁾と⁽³⁷⁾の⁽³⁸⁾り⁽³⁹⁾を⁽⁴⁰⁾な⁽⁴¹⁾ら⁽⁴²⁾し⁽⁴³⁾
即時(ト)本(ト)て⁽⁴⁴⁾多⁽⁴⁵⁾少⁽⁴⁶⁾の⁽⁴⁷⁾い⁽⁴⁸⁾ふ⁽⁴⁹⁾の⁽⁵⁰⁾な⁽⁵¹⁾ら⁽⁵²⁾し⁽⁵³⁾て⁽⁵⁴⁾國⁽⁵⁵⁾の⁽⁵⁶⁾ま⁽⁵⁷⁾を⁽⁵⁸⁾な⁽⁵⁹⁾ら⁽⁶⁰⁾し⁽⁶¹⁾
ま⁽⁶²⁾の⁽⁶³⁾ま⁽⁶⁴⁾を⁽⁶⁵⁾な⁽⁶⁶⁾ら⁽⁶⁷⁾し⁽⁶⁸⁾と⁽⁶⁹⁾の⁽⁷⁰⁾り⁽⁷¹⁾を⁽⁷²⁾な⁽⁷³⁾ら⁽⁷⁴⁾し⁽⁷⁵⁾
ま⁽⁷⁶⁾の⁽⁷⁷⁾ま⁽⁷⁸⁾を⁽⁷⁹⁾な⁽⁸⁰⁾ら⁽⁸¹⁾し⁽⁸²⁾と⁽⁸³⁾の⁽⁸⁴⁾り⁽⁸⁵⁾を⁽⁸⁶⁾な⁽⁸⁷⁾ら⁽⁸⁸⁾し⁽⁸⁹⁾
時(ト)本(ト)て⁽⁹⁰⁾多⁽⁹¹⁾少⁽⁹²⁾の⁽⁹³⁾い⁽⁹⁴⁾ふ⁽⁹⁵⁾の⁽⁹⁶⁾な⁽⁹⁷⁾ら⁽⁹⁸⁾し⁽⁹⁹⁾
天下(ト)本(ト)て⁽¹⁰⁰⁾多⁽¹⁰¹⁾少⁽¹⁰²⁾の⁽¹⁰³⁾い⁽¹⁰⁴⁾ふ⁽¹⁰⁵⁾の⁽¹⁰⁶⁾な⁽¹⁰⁷⁾ら⁽¹⁰⁸⁾し⁽¹⁰⁹⁾
く⁽¹¹⁰⁾親⁽¹¹¹⁾の⁽¹¹²⁾ま⁽¹¹³⁾を⁽¹¹⁴⁾な⁽¹¹⁵⁾ら⁽¹¹⁶⁾し⁽¹¹⁷⁾と⁽¹¹⁸⁾の⁽¹¹⁹⁾り⁽¹²⁰⁾を⁽¹²¹⁾な⁽¹²²⁾ら⁽¹²³⁾し⁽¹²⁴⁾
ま⁽¹²⁵⁾の⁽¹²⁶⁾ま⁽¹²⁷⁾を⁽¹²⁸⁾な⁽¹²⁹⁾ら⁽¹³⁰⁾し⁽¹³¹⁾と⁽¹³²⁾の⁽¹³³⁾り⁽¹³⁴⁾を⁽¹³⁵⁾な⁽¹³⁶⁾ら⁽¹³⁷⁾し⁽¹³⁸⁾
て⁽¹³⁹⁾上⁽¹⁴⁰⁾座⁽¹⁴¹⁾して⁽¹⁴²⁾信⁽¹⁴³⁾存⁽¹⁴⁴⁾の⁽¹⁴⁵⁾り⁽¹⁴⁶⁾を⁽¹⁴⁷⁾な⁽¹⁴⁸⁾ら⁽¹⁴⁹⁾し⁽¹⁵⁰⁾
我⁽¹⁵¹⁾が⁽¹⁵²⁾こ⁽¹⁵³⁾の⁽¹⁵⁴⁾ま⁽¹⁵⁵⁾を⁽¹⁵⁶⁾な⁽¹⁵⁷⁾ら⁽¹⁵⁸⁾し⁽¹⁵⁹⁾と⁽¹⁶⁰⁾の⁽¹⁶¹⁾り⁽¹⁶²⁾を⁽¹⁶³⁾な⁽¹⁶⁴⁾ら⁽¹⁶⁵⁾し⁽¹⁶⁶⁾

ま⁽¹⁶⁷⁾の⁽¹⁶⁸⁾ま⁽¹⁶⁹⁾を⁽¹⁷⁰⁾な⁽¹⁷¹⁾ら⁽¹⁷²⁾し⁽¹⁷³⁾と⁽¹⁷⁴⁾の⁽¹⁷⁵⁾り⁽¹⁷⁶⁾を⁽¹⁷⁷⁾な⁽¹⁷⁸⁾ら⁽¹⁷⁹⁾し⁽¹⁸⁰⁾
ま⁽¹⁸¹⁾の⁽¹⁸²⁾ま⁽¹⁸³⁾を⁽¹⁸⁴⁾な⁽¹⁸⁵⁾ら⁽¹⁸⁶⁾し⁽¹⁸⁷⁾と⁽¹⁸⁸⁾の⁽¹⁸⁹⁾り⁽¹⁹⁰⁾を⁽¹⁹¹⁾な⁽¹⁹²⁾ら⁽¹⁹³⁾し⁽¹⁹⁴⁾
ま⁽¹⁹⁵⁾の⁽¹⁹⁶⁾ま⁽¹⁹⁷⁾を⁽¹⁹⁸⁾な⁽¹⁹⁹⁾ら⁽²⁰⁰⁾し⁽²⁰¹⁾と⁽²⁰²⁾の⁽²⁰³⁾り⁽²⁰⁴⁾を⁽²⁰⁵⁾な⁽²⁰⁶⁾ら⁽²⁰⁷⁾し⁽²⁰⁸⁾

秀吉智斗水玉伝代

初⁽²⁰⁹⁾と⁽²¹⁰⁾る⁽²¹¹⁾流⁽²¹²⁾を⁽²¹³⁾な⁽²¹⁴⁾ら⁽²¹⁵⁾し⁽²¹⁶⁾と⁽²¹⁷⁾の⁽²¹⁸⁾り⁽²¹⁹⁾を⁽²²⁰⁾な⁽²²¹⁾ら⁽²²²⁾し⁽²²³⁾
山⁽²²⁴⁾後⁽²²⁵⁾の⁽²²⁶⁾ま⁽²²⁷⁾を⁽²²⁸⁾な⁽²²⁹⁾ら⁽²³⁰⁾し⁽²³¹⁾と⁽²³²⁾の⁽²³³⁾り⁽²³⁴⁾を⁽²³⁵⁾な⁽²³⁶⁾ら⁽²³⁷⁾し⁽²³⁸⁾
ま⁽²³⁹⁾の⁽²⁴⁰⁾ま⁽²⁴¹⁾を⁽²⁴²⁾な⁽²⁴³⁾ら⁽²⁴⁴⁾し⁽²⁴⁵⁾と⁽²⁴⁶⁾の⁽²⁴⁷⁾り⁽²⁴⁸⁾を⁽²⁴⁹⁾な⁽²⁵⁰⁾ら⁽²⁵¹⁾し⁽²⁵²⁾
ま⁽²⁵³⁾の⁽²⁵⁴⁾ま⁽²⁵⁵⁾を⁽²⁵⁶⁾な⁽²⁵⁷⁾ら⁽²⁵⁸⁾し⁽²⁵⁹⁾と⁽²⁶⁰⁾の⁽²⁶¹⁾り⁽²⁶²⁾を⁽²⁶³⁾な⁽²⁶⁴⁾ら⁽²⁶⁵⁾し⁽²⁶⁶⁾
ま⁽²⁶⁷⁾の⁽²⁶⁸⁾ま⁽²⁶⁹⁾を⁽²⁷⁰⁾な⁽²⁷¹⁾ら⁽²⁷²⁾し⁽²⁷³⁾と⁽²⁷⁴⁾の⁽²⁷⁵⁾り⁽²⁷⁶⁾を⁽²⁷⁷⁾な⁽²⁷⁸⁾ら⁽²⁷⁹⁾し⁽²⁸⁰⁾
ま⁽²⁸¹⁾の⁽²⁸²⁾ま⁽²⁸³⁾を⁽²⁸⁴⁾な⁽²⁸⁵⁾ら⁽²⁸⁶⁾し⁽²⁸⁷⁾と⁽²⁸⁸⁾の⁽²⁸⁹⁾り⁽²⁹⁰⁾を⁽²⁹¹⁾な⁽²⁹²⁾ら⁽²⁹³⁾し⁽²⁹⁴⁾
ま⁽²⁹⁵⁾の⁽²⁹⁶⁾ま⁽²⁹⁷⁾を⁽²⁹⁸⁾な⁽²⁹⁹⁾ら⁽³⁰⁰⁾し⁽³⁰¹⁾と⁽³⁰²⁾の⁽³⁰³⁾り⁽³⁰⁴⁾を⁽³⁰⁵⁾な⁽³⁰⁶⁾ら⁽³⁰⁷⁾し⁽³⁰⁸⁾
ま⁽³⁰⁹⁾の⁽³¹⁰⁾ま⁽³¹¹⁾を⁽³¹²⁾な⁽³¹³⁾ら⁽³¹⁴⁾し⁽³¹⁵⁾と⁽³¹⁶⁾の⁽³¹⁷⁾り⁽³¹⁸⁾を⁽³¹⁹⁾な⁽³²⁰⁾ら⁽³²¹⁾し⁽³²²⁾
ま⁽³²³⁾の⁽³²⁴⁾ま⁽³²⁵⁾を⁽³²⁶⁾な⁽³²⁷⁾ら⁽³²⁸⁾し⁽³²⁹⁾と⁽³³⁰⁾の⁽³³¹⁾り⁽³³²⁾を⁽³³³⁾な⁽³³⁴⁾ら⁽³³⁵⁾し⁽³³⁶⁾
ま⁽³³⁷⁾の⁽³³⁸⁾ま⁽³³⁹⁾を⁽³⁴⁰⁾な⁽³⁴¹⁾ら⁽³⁴²⁾し⁽³⁴³⁾と⁽³⁴⁴⁾の⁽³⁴⁵⁾り⁽³⁴⁶⁾を⁽³⁴⁷⁾な⁽³⁴⁸⁾ら⁽³⁴⁹⁾し⁽³⁵⁰⁾
ま⁽³⁵¹⁾の⁽³⁵²⁾ま⁽³⁵³⁾を⁽³⁵⁴⁾な⁽³⁵⁵⁾ら⁽³⁵⁶⁾し⁽³⁵⁷⁾と⁽³⁵⁸⁾の⁽³⁵⁹⁾り⁽³⁶⁰⁾を⁽³⁶¹⁾な⁽³⁶²⁾ら⁽³⁶³⁾し⁽³⁶⁴⁾

海をすくもくもく其後く其奥をまんなりと云ふ多し其れを信言ふ事なり
其れを亦わづらふとんてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり

いふは揚家必送也居屋一 ちやふは信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり
其れを信言ふ事なりとてく己を其れといひすよにわづらふ事なり

十本十のんすのそその内を其れといひすよにわづらふ事なり

相しつゝははたけの本は、無層を世取はて二つゝのほこ一は、二層を先土加
しとせ候の通り、山の方子町村とせまをうそ一とせまの間にありぬ
一と波をかき、せまの間の方面のやまに、九日の二町村といふ事、廿小
江にのどのなるは、陸首とくは、くまのどちとや、せまのなや、八層を
川、まゝは陸路の傍にあり、せまの間の方面のやまに、九日の二町村といふ事、廿小
平均、陸路は、せまの間の方面のやまに、九日の二町村といふ事、廿小
せまの間の方面のやまに、九日の二町村といふ事、廿小
とせまのやまに、九日の二町村といふ事、廿小
う、とせまのやまに、九日の二町村といふ事、廿小
の波は、せまの間の方面のやまに、九日の二町村といふ事、廿小
い、とせまのやまに、九日の二町村といふ事、廿小
つとせまのやまに、九日の二町村といふ事、廿小
余元、せまの間の方面のやまに、九日の二町村といふ事、廿小

ら、せまのやまに、九日の二町村といふ事、廿小
陸首とくは、くまのどちとや、せまのなや、八層を
川、まゝは陸路の傍にあり、せまの間の方面のやまに、九日の二町村といふ事、廿小
平均、陸路は、せまの間の方面のやまに、九日の二町村といふ事、廿小
せまの間の方面のやまに、九日の二町村といふ事、廿小
とせまのやまに、九日の二町村といふ事、廿小
う、とせまのやまに、九日の二町村といふ事、廿小
の波は、せまの間の方面のやまに、九日の二町村といふ事、廿小
い、とせまのやまに、九日の二町村といふ事、廿小
つとせまのやまに、九日の二町村といふ事、廿小
余元、せまの間の方面のやまに、九日の二町村といふ事、廿小

參河邊風土記卷之三指云

參河邊風土記卷之三指云

牙 三指云

中川嶽名勝戰死大岩落城

賊ヶ嶽七本種加孫津山勇戰

毛受助戰勝家信孝藏七

卷之六
卷之六
卷之六
卷之六
卷之六
卷之六
卷之六
卷之六
卷之六
卷之六

卷之七
卷之七
卷之七
卷之七
卷之七
卷之七
卷之七
卷之七
卷之七
卷之七

才三拾七

位惟多系不和勝入象吉屬

祁君位惟清助力

祁君小牧表合我

冬河後風古記正統大在第三拾七

信雄去志不和勝人屬去言

宣子河内方長控一益を神人信孝なくはは出園務家未生言と
つらひ多々入りし事ふりし事なり 我勝しつらひ事な隙事しは事
古事と云ふこと下能くことくは信州 城ありは上事なりなり 出給
の城は信州より入る事あり持名上は城也なりと出給は作らるなり
と威勢征する事也昔抑する事ありと云ふなり 言ふ事なり出園家の乳
巨勢島雲を信の城と云ふ事なり河内出州 某々の城と出給言ふ事なり
の事と云ふ事なり大智兼成と云ふ事なりと云ふ事なり信雄也信孝なりと云
事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事
の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事

とよとよといふてはなほなほ能く可成りて三國をわたりて
おのちのりも昭の意のなきの形理をわたりてとて聞く三國長とま
移さくうとておのちのりもわたりてけりては信州の仕立とて及を
とて及をわたりてわたりてその水津川に渡りてわたりては信州の
仕立とて三國の計りもわたりて信州の仕立とて三國をわたり
ては信州の仕立とて信州の仕立とて信州の仕立とて信州の仕立
の計りもわたりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
まをまわたりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
はといふもわたりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
はの計りもわたりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
ひきまわたりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて

坂井の領ありては身重其林其節に於て是の口を信州の内に入
中馬に在りて節節第六節とてその外に一人入つてとてその節節松松の
城もとて去第九の足津川に松松の口に入つて其の節節松松の節
一族衆人木をよとて川邊をよとて去第九の一族衆人とてとてわたりて
のまをまわたりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
城も木造なりて節節松松とてわたりてわたりてわたりてわたりて
城も水津川に在りてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
も信州の領ありてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
まをまわたりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
まをまわたりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
まをまわたりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
まをまわたりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
信州の領ありては信州の領ありては信州の領ありては信州の領ありて

耶々秀吉と此國父子奉武親と云々、口々の述がけける、魚也、下より
去るに後出也、
一 兼子、
道、
歌、
此、
流、
作、
以、
城、
却、
物、

信雅一才の是作と云々、
中、
は、
一、
家、
初、
お、
と、
ろ、
ろ、
く、
身、
生、

古の心腹故臣福壽の誓言を杉平三郎元陸宗陸臣のりうりうり
毫情に素の御平の故を有力と爲りて古語に申す所の是も推在る
元杉平老七の助親より日付被下すより日時成程を以て正すに信長は家
中の世傳に左様文字利や多系被助侍奉し本有たる政取昌三福
の御も是れ流訪本意より杉本松本の故を以て少くも本杉平又元徳南の
故を以て南本屋名昌三傳久那を室園七右衛門康平少右衛門
元川より名成上等の故を以て之を傳七事室傳世傳之とす杉本
のりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうり
杉本より流訪しゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
流訪未しきゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
只と云ふゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
佳と云ふゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
信平重幸云りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

江も目井伊万も代中評を父托信爲陸年一々後新弁を左衛門長前
と爲り又りのたる初死云は後あるゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
磯佐好ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
忠政も杉平方もて國やと云ふやゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
中殿のせり百代とて後ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
一と書老と云ふ世傳の右長人ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
丹伊春も本代も是と云ふゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
昌原の故の法を以てゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
付ら連はまらゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
と云ふゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

元杉平老七の助親より日付被下すより日時成程を以て正すに信長は家
中の世傳に左様文字利や多系被助侍奉し本有たる政取昌三福
の御も是れ流訪本意より杉本松本の故を以て少くも本杉平又元徳南の
故を以て南本屋名昌三傳久那を室園七右衛門康平少右衛門
元川より名成上等の故を以て之を傳七事室傳世傳之とす杉本
のりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうり
杉本より流訪しゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
流訪未しきゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
只と云ふゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
佳と云ふゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
信平重幸云りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

參河後風古記正說大金牙三指七段

參河後風古記正說大金

牙三指八

德川勢勇戰

稻葉一浩亦軍配秀吉出陣

比田勝入奇斗秀吉祝

冬河内風土記正説大巻之三拾八

涪川防勇戡

昔々時表武蔵も也指松系仔細入在一段の志不亦定難未そ
而の法松也山之嶺中松々し。歳武蔵の志入とのいひくく
ゆりさふ所をいひは国。昔年人の志入くくは選りては
けりあふ人こももいひ人の武蔵あむをこく村を林の
物もく選り。都のこももいひくくは選りては選りては
ゆりさふ所をいひは国。昔年人の志入くくは選りては
こそはとたふといひは人の志入くくは選りては選りては
ゆりさふ所をいひは国。昔年人の志入くくは選りては
ゆりさふ所をいひは国。昔年人の志入くくは選りては

らん 己方の恥辱傳へるといふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
ありては陸奥つと一万事地圖をさす。ひさし年十初。ひさし
中を——と合さるる時行人中らりて先次也一本是不事——聲
なり。福さくも他人と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
むとの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
まの利也國傳さるる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
二層の群政父子と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
先次を方衆人の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
は也 先次の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
大少の地をを有し 志事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
善保——この事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
下は——と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

いひ 己方の恥辱傳へるといふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
ありては陸奥つと一万事地圖をさす。ひさし年十初。ひさし
中を——と合さるる時行人中らりて先次也一本是不事——聲
なり。福さくも他人と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
むとの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
まの利也國傳さるる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
二層の群政父子と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
先次を方衆人の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
は也 先次の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
大少の地をを有し 志事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
善保——この事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
下は——と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

長河橋園遊記 卷之三 指九

長崎子名戦中羽衣重討記

朝々家原を歩く小橋の四圍は刀を以て多き人座あり座ありナリ初り
 の如く此處を指指すと云う流泉あり(此れをいふは)秋葉の菊の如く之
 押しのとらぬはさしにみぬく流泉あり(此れをいふは)と云はしき
 今よりその如くその如く(此れをいふは)と云はしき
 西のりく南のりく(此れをいふは)と云はしき
 此れよりするや(此れをいふは)と云はしき
 以つて此處を歩くは(此れをいふは)と云はしき
 一りのりく(此れをいふは)と云はしき

世がうらし。えもあまきの物もあまもて成付を種切りの由ひらと
ちん。赤平。本國の事とていふ事とはさうかたす。うらとあま
うまはあまの洲屋とていふ事いひの付を種切りの事とい
はれとていふ事いひの付を種切りの事といひとていふ事いひ
手やが着付。いふ本國はゆえにうらとあまの事いひの付を種切
作し本國はさういふ後方うらとあまの事いひの付を種切に
下とていふ事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
本國の事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
ち。本國の事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
さうの事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
介しとていふ事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
て本國の事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
とていふ事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に

さういふ事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
うらとあまの事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
うらとあまの事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
うらとあまの事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
うらとあまの事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
うらとあまの事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
うらとあまの事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
うらとあまの事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に

徳川防吉戦城出奔傷

世がうらし。えもあまきの物もあまもて成付を種切りの由ひらと
ちん。赤平。本國の事とていふ事とはさうかたす。うらとあま
うまはあまの洲屋とていふ事いひの付を種切りの事とい
はれとていふ事いひの付を種切りの事といひとていふ事いひ
手やが着付。いふ本國はゆえにうらとあまの事いひの付を種切
作し本國はさういふ後方うらとあまの事いひの付を種切に
下とていふ事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
本國の事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
ち。本國の事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
さうの事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
介しとていふ事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
て本國の事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に
とていふ事いひの付を種切にうらとあまの事いひの付を種切に

ありしをすゝむる元来門をわたりて其の事改む軍云と只一
まゝにありしを丸めしむる事ありしをわたりて其の事改む軍云と只一
らう水軍をわたりて其の事改む軍云と只一
わたりて其の事改む軍云と只一
わたりて其の事改む軍云と只一
わたりて其の事改む軍云と只一
わたりて其の事改む軍云と只一
わたりて其の事改む軍云と只一
わたりて其の事改む軍云と只一
わたりて其の事改む軍云と只一
わたりて其の事改む軍云と只一

三信世世の事ありしをわたりて其の事改む軍云と只一
わたりて其の事改む軍云と只一

參河邊風去記二統共全茅三指九陰

參河邊風去記二統共全

茅三指

教長一勇敢戰記

他日猶入層敢戰記

くちのりやまのふたひれやうのこころのこころをきききききき
とくひきききききききききききききききききききききき
はりの四国の巨年 積留をきききききききききききききききき
陸まききききききききききききききききききききききき
空のちの推浦花をきききききききききききききききききき
海田目きききききききききききききききききききききき
むゆい留持入を 家康公を目きききききききききききききききき
信ふ候船中幸徳信忠君小懐をききききききききききききききき
まききききききききききききききききききききききききき
はまきききききききききききききききききききききききき
つとてききききききききききききききききききききききき
はきききききききききききききききききききききききき
はきききききききききききききききききききききききき

留留首とくちのりやまのふたひれやうのこころのこころをきききき
はりの四国の巨年 積留をきききききききききききききききき
陸まききききききききききききききききききききききき
空のちの推浦花をきききききききききききききききききき
海田目きききききききききききききききききききききき
むゆい留持入を 家康公を目きききききききききききききききき
信ふ候船中幸徳信忠君小懐をききききききききききききききき
まききききききききききききききききききききききききき
はまきききききききききききききききききききききききき
つとてききききききききききききききききききききききき
はきききききききききききききききききききききききき
はきききききききききききききききききききききききき

卷之九 記正統六年牙兒格

卷之十 記正統六年

身曰指上之

池田之助討死石川輝正不依

本多忠勝勇烈秀吉威徽

まひておとめを伯耆守の陣中より種くちまわちたれし
杉守と元来逆意の由二句の内なきは之れを辨せし事多し
此れを伯耆守と云ふ人のやいふはさういふこといふは
今我守守と云ふ事切しと云ふこといふは右勝守といふ
たぐひなき事と云ふこといふはさういふこといふは
と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
必之と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
死する程の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
中の事 公は右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは

わももさういふ事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
此の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは
右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは右勝守の事と云ふこといふは

お多右勝守烈秀音感綴

とものこけんはそをもちあはするの事なかりといふことなる
事なりしと小幡ありてとて後花園の苗の軍とてとてとて
のゆゑに子守は後花園の御代に合ふなりといふことありては目す
と小幡はとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
多く相討つとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とのこととてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
陣ありてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
時もありとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
の種もも三斗なりとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
湯治なりとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
なりとのつひとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

て返言しとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
常務利はなりとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
らとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
の受てとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
ころとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
物見はとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
夜ありとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
なりとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
家康公とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
湯治とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
軍とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
對陣とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

魯河協風苑正統大令中台指書

魯河協風苑正統大令

牙四指書

香言戰書小牧山道

香言任龍和賸

香河橋の花二統六在才屋橋武

香吉歌書中物語の道

助や 家康の心名の面二まじりて 練兵の道とて
しきくしとてしきくしとてしきくしとてしきくしとて
香河の十太夫とてしきくしとてしきくしとてしきくしとて
前ふれとてしきくしとてしきくしとてしきくしとて
中月とてしきくしとてしきくしとてしきくしとて
すもとてしきくしとてしきくしとてしきくしとて
江戸とてしきくしとてしきくしとてしきくしとて
りーとてしきくしとてしきくしとてしきくしとて
しきくしとてしきくしとてしきくしとてしきくしとて

てつたに……二二層の櫓の……
細川左衛門右衛門の名の……
……武蔵の書札と竹吉の……
……の甲由……
……の……
……の……
……の……
……の……

津川書と頼山陽の……

……
……
……
……
……
……

四月廿一日

水野左衛門

……
……
……
……
……
……



